

1 研究主題、研究内容、方法等について

(1) 研究主題

自己肯定感が高まる子供の育成 ～互いを認め合える集団づくりを通して～

(2) 主題設定の理由

本園は昨年度、「遊び込む子供を目指して～問いかけや教材提示の工夫を行う振り返りを通して～」を研究主題とし、教職員間での情報交換、研究保育の実践を通して、思考を促す教師の問いかけや、遊びの広がりや深まりにつながる教材提示の工夫を行った。その結果、自分なりに思いをもって試したり工夫したりして遊ぶ姿に変容し、「遊び込む」子供の育成につながった。自分の好きな遊びを見付け、遊び込む姿が見られる一方で、自分にどこか自信がもてず、自分の思いを表出しにくい姿や、特定の友達との関係性が強く、新しい関係が広がりにくい様子が見られた。

そこで、本年度は、研究主題を「自己肯定感が高まる子供の育成～互いを認め合える集団作りを通して～」として研究を進めていく。『幼稚園教育要領解説』では、領域「人間関係」の内容の取扱いにおいて、「集団生活の中で、幼児が自己を発揮し、教師や他の幼児に認められる体験をし、自分の良さや特徴に気付き、自信をもって行動できるようにする」と示している。幼児の遊びや生活といった直接的、具体的な体験を通して、教師や他の幼児との関わりの中でつながりを感じ、受け入れられる経験や「できた」という感覚を積み重ねることによって、自他への信頼感や自己肯定感を高めることができる。そして、自己肯定感を高めることにより、少し難しいと思うことや新しいことでも自分の力でやってみようとする意欲につながり、やってできた満足感を味わうなどの体験を積み重ねる中で自信をもって行動することができる考える。

研究にあたり、教職員での遊びの情報共有、保育カンファレンス、研究保育を通して、幼児理解を深めたり、教師の援助や環境の構成の工夫について協議したりしていく。体験活動の充実を図り、わくわくタイム（クラスでのまとまった活動）からおひさまタイム（自ら選んで遊ぶ活動）へと遊びのつながりをもたせるなどすることを通して、幼児一人一人の遊びや活動が充実し、自己を発揮するようになり、得意なこと、興味のあるものを見付け、それを伸ばしていくことで、「できた」という感覚や、他者から認められる経験を積み重ねていくことができるようにしていく。幼児の興味や関心を探り、幼児自らが関わり、多様な体験を通して充実感や満足感を味わうことができるように環境を構成していく。

幼児同士が関わり合いながら互いのよさを認め合う中で、自己肯定感を高めるための幼児理解と、教師の援助と環境の構成の工夫について探っていきたい。

(3) 研究目的

互いに認め合う集団作りを行う中で体験活動の充実を図り、教師が幼児理解を深めたり、教師の援助、環境の構成の工夫を行ったりすることによる幼児の自己肯定感の高まりを探る。

(4) 研究方法

①体験活動の充実（遊びのつながり）

教職員で遊びの情報交換を通して、幼児の遊びの姿や様子を共有し、興味や関心、思いを見取り、必要な豊かな体験が得られるような教師の援助や環境の構成について探る。

②保育カンファレンス・研究保育

○実践を基に事例検討を行い、分析、考察する。

○記録（エピソード・ビデオ等映像記録）や研究保育での観察などから、多面的に保育を見つめ直し、幼児の姿や育ちを捉え、幼児理解を深める。

○「自己肯定感の育ちのイメージ図」を基に、自己肯定感を高めるための教師の援助や環境の構成について探る。

(5) 研究仮説

互いに認め合う集団作りを行う中で、体験活動の充実を図り、教師が幼児理解を深め、幼児一人一人に寄り添った援助や環境の構成の工夫を行うことで、幼児が自他への信頼感をもって自己を発揮し、自己肯定感を高めることができるであろう。

2 研究構想図

研究主題

自己肯定感が高まる子供の育成 ～互いを認め合える集団作りを通して～

目指す幼児像

- ① 自信をもって遊び込む子
- ② 自分の好きな遊びを通して、充実感を味わう子
- ③ 自分も友達も大切にする子

研究仮説

互いを認め合える集団作りを行う中で、体験活動の充実を図り、教師が幼児理解を深め、幼児一人一人に寄り添った援助や環境の構成の工夫を行うことを通して、幼児が自他への信頼感をもって自己を発揮し、自己肯定感を高めることができるであろう。

研究の内容 ～互いに認め合う集団作り～

- 体験活動の充実を図る。
- 自己肯定感を高めるための教師の援助や環境の構成の工夫を探る。
- 保育カンファレンス・研究保育を通して幼児理解を深める。

教師の援助

- ・受容的な関わりをする
- 認める
- 褒める
- 受け止める
- 評価する
- 励ます

環境の構成の工夫

- ・互いのよさを認め合える環境
- ・発達段階に応じた環境
- ・子供の興味、関心に応じた教材の提示
- ・自ら選択できる場
- ・達成感、充実感につながる体験ができる環境

目指す幼児像の具体的な姿

<p>① 自信をもって遊び込む子</p> <ul style="list-style-type: none">・好きな遊びがある。・得意なことを活かして遊ぶ。・継続し、遊びを発展させる。	<p>②自分の好きな遊びを通して、充実感を味わう子</p> <ul style="list-style-type: none">・自分の思いを表出する。・失敗を恐れず挑戦する。・他者から認められ、達成感を味わう。・試したり工夫したりして遊ぶ。	<p>③自分も友達も大切にする子</p> <ul style="list-style-type: none">・自分のことが好きである。・自分に自信をもつ。・苦手なことがあってもよいと思える（ありのままの自分を受け入れる）・他者を認める。
---	--	--

3 園内研修計画

月 日	公開保育 園内研修等	具体的な取組の内容
4月 5日 (金)	園内研修	今年度の研究推進について
4月 15日 (火)	園内研修	今年度の研究について 「自己肯定感」の定義, 「自己肯定感」の育ちのイメージ図作成
4月 25日 (木)	園内研修	遊びの情報交換
6月 26日 (水)	公開保育	研究保育 ひまわり組
7月 19日 (金)	園内研修	保育カンファレンス ひまわり組
7月 22日 (月)	園内研修	「自己肯定感」の定義, 「自己肯定感」の育ちのイメージ図見直し
7月 23日 (火)	園内研修	遊びの情報交換 (2期)
8月 7日 (水)	園内研修	「自己肯定感」の定義, 「自己肯定感」の育ちのイメージ図見直し
10月 2日 (水)	公開保育	研究保育 そら組
10月 11日 (水)	園内研修	遊びの情報交換 (前期後半 3期①)
10月 15日 (火)	園内研修	保育カンファレンス そら組 ひまわり組
10月 30日 (水)	公開保育	研究保育 ひまわり組
12月 12日 (木)	園内研修	遊びの情報交換 (後期前半 3期②) 今年度の研究の成果と課題について
3月 13日 (木)	園内研修	遊びの情報交換 (後期後半 4期)

自己肯定感の育ちのイメージ図

めざす子供像

- ① 自信をもって遊び込む子
- ② 自分の好きな遊びを通して、充実感を味わう子
- ③ 自分も友達も大切にする子

